

富山県総合計画審議会第1回青年委員会

日時：平成29年1月19日（木）10:00～11:30

場所：富山県民会館8階バンケットホール

<出席委員>（五十音順）

森井委員長、上澤副委員長

青木委員、大塚委員、大坪悟委員、大坪洋介委員、岡島委員、小柴委員、小林委員、城村委員、砂田委員、高見委員、中瀬委員、服部委員、深井委員、福井委員、古本委員、武蔵川委員、森委員、山崎委員

1 開 会

【司会】 おはようございます。今日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、富山県総合計画審議会の青年委員会を開催します。

はじめに、石井知事からご挨拶を申し上げます。

2 知事挨拶

【石井知事】 皆さん、おはようございます。本日、富山県総合計画審議会の1回目の青年委員会を開催したところ、委員の皆様には、このたびの委員就任についてご快諾いただき、かつ、お忙しい中こうしてご参加賜り、誠にありがとうございます。

富山県では、今から5年ほど前、平成24年4月に県政運営の中長期ビジョンとして総合計画「新・元気とやま創造計画」を策定し、それから4年半ほどたちました。ご承知のとおり、新幹線が開業して1年と10カ月余りたちましたが、明らかに富山県では当時想定していた以上に大きな開業効果が出ています。

また、併せて数年来、政府にお願いして、地方の人口減少対策、地方創生を中央政治の重要テーマにさせていただくことができました。これを受けて、今後5年間に取り組むべき施策を盛り込んだ「とやま未来創生戦略」を一昨年10月に作り、さらにその改定版を昨年3月に出しております。

また一方で、大きく世界、日本も変わる中で、もっと長期にもものを考えなければならないということで、「経済・文化長期ビジョン」というものも、1年ほど議論していただいて昨年9月に発表しております。

これらも踏まえて、前回の総合計画策定から5年近くたちましたので、もともと5年に1度はロ

ーリングシステムで、この10年間の中期計画を見直していくことにしていましたので、新しい総合計画を作りたいということで、年末に総合計画審議会を開きました。

「経済・文化長期ビジョン」のときも、30年後というやはり、今各界を代表する方々はどうしても年齢的に50～70歳代ですから、もっと30歳代あたりの若い人のご意見をしっかりお聞きする場をつくりたいということで、青年部会をつくりました。今回の総合計画審議会でも若い世代の皆さんのご意見をしっかり承って反映させたいということで、この青年委員会を設置させていただきました。

今でも皆さんには富山県の各分野で重要な役割を果たしていただいていると思いますが、10年後、あるいはその先、まさに皆さんが富山県を担う中核的な存在として、大いに活躍していただかなければなりません。ぜひ皆さん自身の将来に関わることでありますから、できるだけ建設的な、また、具体性のあるご意見をいろいろと頂けると、ありがたいと思っています。

なお、昨年の知事選挙でご支持を賜って、4期目に入らせていただきました。そのときに県民の皆さんに、100の政策をお示しして当選させていただきました。従って、この新しい総合計画には、この100の政策はぜひ盛り込みたいと思っていますが、それも含めてご議論いただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

【司会】 この青年委員会は、昨年12月8日に開催されました第1回富山県総合計画審議会において、富山県総合計画審議会運営規程を改定し、新たに設置されることになったものです。お手元にお配りしている資料1、富山県総合計画審議会条例および、資料2、富山県総合計画審議会運営規程をご覧ください。

条例第9条第1項により、委員の皆様は知事から富山県総合計画審議会の専門委員として任命されております。皆様のお席に知事からの委嘱状をお配りしておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

また、運営規程第6条第1項により、本青年委員会の委員長および副委員長は、総合計画審議会の会長が指名することになっていますが、審議会の永原会長から、あらかじめ委員長に森井信次委員、副委員長に上澤聖子委員との指名を頂いております。森井、上澤両委員におかれましては、よろしく願いいたします。

次に、資料3の青年委員会名簿をご覧ください。青年委員会はこの名簿のとおり、委員21名の方々に委嘱申し上げておりますが、本日はこのうち20名の方にご出席いただいております。本来、お一人ずつご紹介申し上げるべきところですが、時間の関係もございまして、恐縮ではありますがお

手元の名簿の座席表をご覧ください。ことごとご紹介に代えさせていただきます。

では、早速議事に入りますが、運営規程第7条により、委員長に委員会の議長をお願いすることになっておりますので、森井委員長に議長をお願いしたいと思っております。それでは委員長から一言ご挨拶を頂き、引き続き議事に入っていただければと思っております。森井委員長、よろしくお願いいたします。

【森井委員長】 それでは、一言ご挨拶させていただきます。総合計画審議会の青年委員会の委員長を務めさせていただくことになりました森井信次です。知事様をはじめ、本当にこのようなそうそうたるメンバーで、誠に大役であり、緊張していますが、ぜひとも皆様方のご協力を賜りまして、職務を全うしたいと思っております。

これから審議を行っていく新しい総合計画は、変化の大きいこの時代に、県づくりの将来ビジョンを示すものであり、大変意味深く、重要な意味を持つものだと思います。皆様方におかれましては、各業界、業種の中でご活躍されている、主に30代の方が集まっておられます。このようないろいろな経験をされている皆様の柔軟な発想や意見は、やはり行政も強く求めているところであろうと思っております。

そのため、皆様方の自由闊達なご議論を頂き、皆様の意見を反映した素晴らしい総合計画案作成に貢献していきたいと思っておりますので、どうかご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、これから会議を進めさせていただきます。最初に事務局から説明をお願いします。

3 議 事

(1) 総合計画の見直しについて

【事務局】 それでは8ページ、資料4の総合計画の見直しの資料をご覧ください。今ほど知事の挨拶にありましたとおり、ここに書いてあります、ご覧の策定趣旨を踏まえ、昨年12月8日に総合計画審議会において諮問させていただきました。このたび、平成38年度を目標年度とする、おおむね10年間程度を見越した新たな総合計画を策定していこうというものです。

続いて9ページのスケジュールですが、今年の秋までに、今回を含めて都合3回の青年委員会を開催させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。詳細スケジュールについては次のページにありますので、ご確認いただければと思っております。

続いて11ページ、資料5-1、新たな政策体系(案)です。先般の審議会において、100の新たな政策体系を提示しておりまして、ご覧いただいているのは「活力」のものです。下の表の左側が現

行計画の 21 の政策です。これを右側の 30 の政策としておりまして、今後はこの新しい政策体系に基づいて、議論を進めさせていただきたいと考えております。それぞれ「未来」「安心」「人づくり」の順で資料を添付しておりますので、ご確認をお願いします。

それから 15 ページ以降について、資料 5-2 ですが、これは今ほどの 100 の政策ごとに、個々の主な取組みのポイントをそれぞれ記載しておりますので、ご意見を頂く際の参考にしていただければと思っております。

続いて、少し飛びますが、後ろから 3 枚めくっていただき、参考資料 1 です。ライフステージごとに重要政策である「人づくり」に関連する政策をまとめておりますが、こちらはそのポイントを取りまとめておりますので、ご参考にしていただければと思います。

最後に参考資料 2 には、前回の審議会での、委員からの主なご意見を添付しております。

続いて、飛びますが資料 6 をご覧ください。青年委員会の皆様方のアンケート調査結果を付けています。1 ページ目の「10 年後の県民生活はどのようになるとお考えか」という問いの一番下の 14 番、「安心して子どもを産み育てることができる社会となり、少子化に歯止めがかかっている」状態かというところは、肯定がゼロになっています。そういった意見を反映して、それ以降のアンケートについても、少子化、子育て支援の充実、雇用の確保、人材育成などが、要望の上位に来るような形になっております。

30 ページ以降につきましては、それぞれ委員の皆さんからの自由意見が載っておりますので、ご参考までにご確認ください。以上です。

【森井委員長】 ありがとうございます。事務局からの説明につきまして、ご質問があればお伺いしたいと思います。何かございますでしょうか。事前入稿をかけていただいておりますので、大丈夫かと思えます。

(2) 意見交換

【森井委員長】 それでは、本日は第 1 回ということでもありますので、皆様からお一人ずつ意見を頂きたいと思えます。お話しいただきたいのは、次の 2 点です。まず、冒頭にご説明がありました「活力」「未来」「安心」の各施策の中から、ご自身が活動されている分野、ご関心のある分野について、10 年先を見据えて今後どのような取組みが考えられるか、ご意見、ご提案をお願いします。

次に、せっかくの青年委員会ですから、今後、若者ならではの視点で意見を取りまとめたいと思

っています。そこで、今回は総合計画の重要政策にもなっております「人づくり」に関して、皆さんとの共通のテーマとしてご意見を頂きたいと思います。ついては、特に先ほどご説明がありました資料 5-2、新たな政策体系の主な取り組み方法について、「人づくり」の 1、21 ページのテーマ 2、22 ページのテーマ 4、ちょうどわれわれ同世代の「人づくり」について、今後、富山県が施策を進めるに当たってどのような視点が重要か、具体的な施策の提案なども含めて、ご意見、ご提案をお願いします。

できれば最後に意見交換の時間を設けたいのですが、時間の都合もごございますので、合わせてお一人 3 分以内をお願いします。今日は名簿の順で行いたいと思います。最初は青木さん、お願いします。

【青木委員】 青木と申します。よろしくをお願いします。あいうえお順ということで 1 番なのですが、トップバッターにはふさわしくないというか、私は県内に住む外国人の支援活動をしています。その立場から申し上げさせていただきます。ちょっとマージナルな立場からお話しします。

興味がある点というか、活動のポイントは「未来」の方に当たると思いますが、まず資料 4 にプラン作成の見直しの背景として、「世界の経済の中心は欧米中心から多極型へシフトし」とあります。まさにそのとおりで、日本国内も富山県内も本当に日本対欧米ではなくなって、世界各地から富山県にいろいろな人たちが来ています。その観点が「人づくり」という施策のプランに反映されているかという、私はそうではないと思います。

例えば、外国人住民ではないですが、「未来」の 39 番などは、英語教育に力を入れるというものが挙げられています。英語教育に力を入れることは、私は個人的にはすごく賛成ですが、グローバル人材を育てるという観点での「人づくり」はこれしかなくて、結局は日本対欧米の二項対立になっているのではないかと思います。

それよりも、言葉ができればそれでグローバル人材かと言われればそうではなくて、一番大事なことは多様な価値観や考え方、文化、習慣を知って理解して認め合うことで、その上での語学教育だと思っています。つまり、多様性を育むこと、そしてその多様性を生かすという観点が、もう少し必要なのではないかと思います。

一方で、外国人住民の方に視点を移しても、外国人住民は日本で定住しているので、日本と外国のルーツというハイブリッドなポテンシャルを持っているのです。そのハイブリッドなポテンシャルを生かすグローバル人材の育成、つまり外国人住民を富山県民として育成していくという観点が欲しいと思います。「未来」の 53 番には「外国人にとっても県民にとっても暮らしやすい地域づく

り」と書いてありますが、これを読むと、まるで外国人住民は県民ではないような書き方になっているので、私は少し違和感を覚えました。

また、外国人住民というと、何か大人になって出稼ぎに来ている短期的な労働者の日本生活適応支援という観点がすごく多いのですが、実際には日本で生まれたり、幼いころに日本に来て人格形成をする外国ルーツの子どもたちもたくさんいます。その子たちにとっては富山県も故郷であり、学校を出た後も富山で生活しています。彼らのハイブリッドの力を排除するのではなく、むしろ富山で生かしながら活躍してもらおうという観点で、いろいろな教育制度などを整えていってもらえないかと思います。

それは多分、こうあるべきという一つの形に集約されるのではなく、いろいろな価値観や多様性を受け入れる政策、施策だと思っています。それは多分、外国人だけではなく、特別支援を要する人やひきこもりの人、従来の「普通」とか、「当たり前」とか、「こうすべき」に当てはまらないような、私もそうなのですが、そういう人々にとっても生きやすく、力を発揮することができる富山県づくりにつながるのではないかと思っています。具体的な政策提案ではなくてすみません。以上です。

【森井委員長】 ありがとうございます。続いて大塚さん、お願いします。

【大塚委員】 大塚と申します。普段は第三種の小さい旅行会社で、立山の登山ガイド、トレッキングツアーなどをメインにしています。普段活動する中で感じていることなどについて、今回お話しさせていただければと思います。

まず「活力」の4、観光振興と魅力あるまちづくり、「選ばれ続ける観光地づくり—海のあるスイスを目指して—」という施策があります。これは日々感じていることなのですが、新幹線が開通してから、旅行者、外国人をたくさん見掛けるようになっていますが、今後はどんどん個人客の時代になってくると思います。そのときに、特に北陸新幹線が今後、関西方面に延伸していくことになると、今までの太平洋側のゴールデンルートから、北陸の方も新たな、新ゴールデンルートということで主流化できるような、そのような壮大な観光地が北陸方面にも広がってくると思います。

その中で、僕もそうなのですが、旅行者にはどこの県に行きたいという目的はなく、恐らくピンポイントで写真で見たり、話を聞いたりした場所に行きたいというところがあって、それをゴールデンルートに沿って点でつないでいながら、臨機応変に途中、途中で話を聞いて、行きたいというところがあれば町から足を少し伸ばしてみるとか、そのような観光が現実的なのかなと思ってお

ります。

その中で、富山県の中にいると、どうしても富山県の中にずっといてもらいたいとか、富山県の新幹線の駅を拠点に行動を取ってもらいたいとなってしまうのですが、ゴールデンルートを見て、どれぐらい外国人が日本に滞在して、何泊するのか、その中で北陸に何泊してもらって、どこの観光地に行くのか、そのような広域的な目で見ていくといいのかなど。もしかしたら富山県の市町村、新幹線の駅が拠点ではなく、例えば金沢や高山、そこから人が直接入ってくることも考えてもいいのではないかと思います。

もう一つ、「人づくり」に関して、日ごろから、夏休みなどは登山ガイドとして学校登山、小学生に触れる機会が多いのですが、せっかくこれだけの魅力ある立山連峰があっても、そのときに初めて立山に登りに来たという子どもがほとんどですし、親の世代に話を聞いても、小学校以来、登ったことがないという方が多いので、これはとてももったいないことだと思います。

ふるさと学習の推進という項目もありましたので、学校行事として課外活動をしていくのはなかなか難しいかもしれませんが、ぜひ地域や学校の枠を越えて富山のいいところ、いいものに触れるようなふるさと学習をしていくことで、今後、また富山に戻って活躍する人材が増えていくのではないかと思いますので、またいろいろとご意見できればと思います。ありがとうございました。

【森井委員長】 大塚さん、ありがとうございます。続いて大坪さん、お願いします。

【大坪悟委員】 よろしく申し上げます。株式会社ビーラインの大坪と申します。富山県内で飲食業を中心に経営させていただいております。私は、今回は食からではなく、「活力」「未来」「安心」という点が、点で終わるのではなく線や面につながるような環境をつくっていくべきだと思います。

その中で、私自身は学生時代からスポーツを一生懸命やっていたのですが、そのようなところの流れと、例えば富山空港など、富山県には国際的な路線が何路線もあることとをつなぎ合わせて、スポーツと国際交流を結び付けるような環境をつくっていくべきではないかと思っております。

そのようなところで、サッカーはサッカーの交流、スポーツはスポーツの交流という促進だけではなく、先ほど青木さんからもあった語学やグローバリズムと兼ね合わせたような、一貫した教育システムや交流の仕組みがあれば、もっと富山県は魅力的な県になっていくのではないかと思います。

12月8日の審議会でも、子ども、大人、高齢者まで楽しめるような、全天候型の文化スポーツ施

設の建設という話もあったのですが、人と物とそしてお金、情報、時間の中で、やはり人と物が同時に動いていく、同時にバランスを取って発展していくことが大切ではないかと思っております。

私自身、私は今は国際交流科しかない高岡市の高校の出身なのですが、そのような国際交流科の中での語学だけではなく、5 路線ある国の中から、いろいろなスポーツをやっている方々との交流なども、どんどん普及していくと面白いのではないかと思っております。

そして、そのような発展性のある中で、去年はやはりオリンピックの金メダリストが、富山県から2人出る快挙も成し遂げています。このようなことに対して子どもたちの選択肢が広がり、夢がかなり広がっていると思います。そのような機運も後押しして、やはり物に対しての投資もしっかりしていくべきだと感じました。以上です。ありがとうございます。

【森井委員長】 大坪悟さん、ありがとうございます。続いて大坪洋介さん、お願いします。

【大坪洋介委員】 JA 富山県青壮年組織協議会の大坪です。私からは、やはり農業の視点で少し意見を言いたいと思います。まず「活力」の13の、食のとやまブランドの県内外への認知や農産物の販売、販路に関してですが、「1 億円産地づくり」等を今、一生懸命 JA グループも含め、いろいろな所でやっていますが、農産物を作って市場に出荷しても、市場的には今さらという感じがあり、県外の同じ農産物よりも値段が低く付いてしまう場合が多々あります。それで生産者の意欲がなかなか伸びず、1 億円の産地をつくる勢いもつかないという部分もあることから、市場流通の意識を変えていきたいと個人でも思っていますし、市場流通の機能を変えないと、食のブランドとしての富山県の農産物の PR 等ほうまくいかないのではないかと思います。

それと、県内の農業従事者が65歳以上と、高齢化が心配されている部分もありますが、僕個人としては、農業は若者もやれば良いと思うのですが、今は団塊世代の方、会社を辞められるような年代から、なぜか農業に目覚めたり、野菜を作り始めたりする人が多くなります。ですから、高齢化を逆手に取って、今は農業カレッジもありますし、知事にも経営者の新しい学校を作ってもらおうという部分もあるのですが、65歳以上の人を対象にした農業カリキュラムみたいなものを作って、65歳以上が輝き、現役率の向上ということで、地域で働けるような場所をつくっていったらいいのではないかと思います。

「人づくり」の論点として、若者の社会の一員としての自立促進で、僕も地域で消防団をさせていただいているのですが、やはりなかなか若い方が入ってきません。消防団はお酒を飲む団体のように見受けられる部分が多々あると思うのですが、今は徐々にそういうこともなくなってきていま

す。人手不足は僕の分団でもあるのですが、僕が入団したきっかけは、大学のときに同じ農業を志す友達と、地域に帰って地域の農業をするときには、地域の消防団にも入っているいろいろとつながりを持たなければいけないと話し合っ、地元に戻ってちゃんとそういう活動をしよと思っということもあるので、大学生のときなどにいろいろ議論をしてもらっ場を取ってもらったり、学生に消防団の活動をしっかり見てもらえるような機会があればいいのではないかと考えています。今のところそれだけです。ありがとうございます。

【森井委員長】 ありがとうございます。少し時間が押しておりますので、2～3分をお願いします。次は岡島さん、お願いします。

【岡島委員】 岡島美由紀といいます。よろしくをお願いします。家族で経営する小さな農家の嫁です。農業分野の女性の目線で提案させてもらえたらいいかなと思っています。まず「活力」では、13番、食のとやまブランドの確立で、今、米のブランド力の強化ということで、コシヒカリに次ぐ新品種の開発がだいぶ進んでいるようで、とても楽しみにしています。今の富山の気候に合ったおいしいお米が安定して作れるようになると期待しています。立山に守られた豊かな大地とおいしい水で育てた米は、きっと注目を集められると思うので、ブランドづくりには特に力を入れていただきたいです。

そして12番、私は昨年より助成金を頂いて、農産物の加工を始めました。農業では女性が活躍できる場面は限られてくるので、女性の得意分野への支援は本当にありがたいと思います。これからも続けていただきたいです。

続いて「未来」について、特に気になっていることは57番、今住んでいる農村の廃退具合です。高齢化によって空き家が増えて、老人の一人世帯も多いです。うちの子供が大人になったときに、一体どうなってしまうのか心配です。空き家への移住者の勧誘や、同居もしくは2世帯同居への支援など、農村の人口減少への対策は必要だと思います。

続いて「人づくり」に関しては、子供の教育です。将来的に農業に興味を持ってもらう人を増やすためには、子供のころの体験が重要だと思います。私自身、非農家から農業に入ったのですが、多く自然と触れ合い、子供のころに農業と少しでも関わりを持っていると、何かのきっかけで農業に興味を持ち、農業が魅力的に感じられるということもあると思うので、子供のころの自然体験、農業への関わりを増やしていただけたらいいと思います。

最後に、私はとやま農業未来カレッジの第1期生として、去年卒業しました。カレッジでは、知

識や技術をたくさん学べましたが、一番良かったのは、富山県内各所でどのような農業をしているのか、実際に見て活躍している方々のお話を直接聞いたことです。研修では、自分がやりたい分野の先輩とつながりを持って、自分がやりたいと思っていたことが、人とつながることで可能性が広がっていくことを実感しました。富山の農業の魅力を前面にアピールして、農業のイメージアップをすることは、若い農業者の確保にはとても必要だと思います。農業を志す若者がカレッジで基本を学び、県内全域の農業に触れることは、将来的にもとても有意義なことだと思うので、どんどん宣伝していただけたらいいと思います。以上です。

【森井委員長】 岡島さん、ありがとうございます。続いて上澤さん、お願いします。

【上澤副委員長】 あさひふるさと体験推進協議会の上澤と申します。私は朝日町で観光交流とまちづくりの仕事をさせていただいております。「人づくり」、特に子どもたちのふるさと学習に力を入れてやっていますが、富山県で修学旅行の誘致ということで、平成31年から北陸新幹線が、特急と乗車券とも両方割引になるということで、今まで関西方面の修学旅行生がちょっとずつ伸びてきている中で、今度は京都と同じような値段で北陸にも関東方面の生徒たちを呼び込めるということで、これからまだまだ伸びていくと思うのですが、修学旅行ということで、将来の富山県のファンづくりにつながる事業だと思ってやっています。

観光の分野は、幅広く農林漁業や商業へ波及効果が大きい産業であり、力を入れていただきたいと思う中で、今、修学旅行では特に民泊が人気なのですが、今は町のガイドラインを設けて受け入れています。ぜひ県でも条例やガイドラインを定めていただき、民泊をちゃんと進めていけたらありがたいと思います。今は子ども民泊がスタートですが、今後、インバウンドなどにも広がってほしいと思っています。

またふるさと学習の面で、今は特に小学校で使われていると思うのですが、生徒が減って、教員が減って、出身地ではない先生による市町村でのふるさと学習が、どうしても内容が深まらないと、先生方自身が課題に思っておられるので、先生方の負担を減らすためにも、ぜひ小中学校でもっと地域の人材を有効に活用していく動きになっていかないかと思っています。

私も小学校や大学で、観光交流とまちづくりの話をさせていただく機会が増え、見ていても地域の人材の活用が増えてきたと思うのですが、なかなか学校では地域の人とマッチングがうまくいっていないような、まだまだ分からないのではないかと、ぜひそういうことが進んでほしいなと思っています。以上です。

【森井委員長】 上澤さん、ありがとうございました。続いて小柴さん、お願いします。

【小柴委員】 株式会社コージンの小柴です。弊社は自動車部品や電気部品を製造販売しているメーカーです。まず1番目の提案は「活力」のところ、これは観光にも関係がありますが、今後ますます人口が増加していき、経済発展していく東南アジアと積極的につながりを持つことで、観光客や優秀な人材の流入につながるのではないかと考えております。弊社はインドネシアに工場を出して14年目になろうとしています、インドネシアは人口が2億5000万人いて、非常に親日的でもありますので、富山に観光もしくは仕事に来ていただくとすごくいいのではないかと、一つ提言させていただきます。

あとは尖った政策というか、他の県ではやっていないようなことをやれるといいのではないかと思います。世界一や世界唯一の富山県というところをアピールできるような、富山県は世界一魚がおいしい所なので漁港の観光地化をすとか、具体的に言うとそういうことです。

もう1個、非常に具体的なのですが、例えば女性の観光大使などがいらっしやると思います。今は何となくマスコットのイメージですが、例えば観光大使がバンドを組んで富山県をPRする曲を作って日本中、世界中にPRするような、能動的というか、活動的なイメージを持った観光大使などがいてもいいのではないかと考えています。実際に僕も2年ほど前から富山県をPRする曲を作って、去年の新幹線開業県民共同事業の補助金を頂いて勝手にイベントをやったりしていますので、また声を掛けていただければと思います。

2番目の「人づくり」に関して、根本的に自己肯定感を上げる必要があると思っています。これは2014年のデータですが、諸外国に比べて日本人の自己肯定感は非常に低いというデータがあります。他の国は大体80%が自分に満足しているのに対して、日本人は50%以下というデータがあります。自分を肯定的に捉え、自分を愛することが人づくりの土台になると思いますので、そういったところを教育の中に入れていければいいのではないかと考えています。以上です。

【森井委員長】 小柴さん、ありがとうございました。続いて小林さん、お願いします。

【小林委員】 米工房 Jasmine の小林です。よろしくお願ひいたします。私は魚津市で米粉パンの製造販売を行っております。日ごろより県の方々に多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。そして、「魚津のパン屋さん」の撮影では、たくさん協力して出演もさせていただいて、どう

もありがとうございました。

私はまず12番の女性の事業や6次産業化など、付加価値の増大への取り組みの支援ということで、本当に県の方々から協力いただいて、何よりも金銭面だけでなく視察研修に行けることが、私はすごく自分の糧になったかなと思います。

視察研修に自分一人で行って気付くことももちろんあるのですが、県からみんなで一緒に視察に行って、他の人から聞いたことや見たことを言われることで、自分一人では気付かなかった点を勉強することがたくさんあるのです。自分では、ここよりも違うお店に行ってみたいなと思っても、やはり今日行ってよかったという気持ちに必ずなれるので、そういう取り組みにこれからもどんどん取り組んでいってもらえたらうれしいです。

そして13番「食のとやまブランドの確立と地産地消、国内外の市場開拓」ですが、仕事柄、どうしても食のブランドや、実家も米を作っているのですごく思うのですが、コシヒカリを超える新品種の開発には、前からすごく取り組んでいらっしゃると思いますが、コシヒカリだけにこだわらないで、これからは低アミロースだとか、高アミロースだとか。主食米は、コシヒカリで中アミロースなのですね。低アミロースというのはもち米とか、ちょっと粘り気が強いものです。高アミロースは東南アジアなどでよく食べられているちょっとパサパサしたものですが、そういう他の県が取り組んでいないところにも、富山でしかとれないものとして、もうちょっと力を入れていけたらいいのではないかと思います。

私の家の方では、6年前から高アミロース米を試験的に栽培していて、ブランドになるまでとか、名前が付くまでには、1年、2年というスパンではなく、10年ぐらいのスパンで売っていかねばいけないと思うのですが、お米は1年に1回しかとれないじゃないですか。それを長い目で見たときに、ここだけではなく、ここがうまくいったから来年もうまくいくとは絶対なりません。もちろん天候の状態や災害などいろいろなことで、1度、2度でうまくいくものではないので、長い目で、10年スパンで見て、そのお米を富山だけで食べるのではなく、富山でとれたものを例えば東南アジアに持っていき、東南アジアの人々を対象にして販売できればいいのではないかと思います。私ごとになって申し訳ありません。

それから39番ですが、「14歳の挑戦」を私もお店で受け入れています。やはり子どもの観点、変わった目線で、自分では気が付けないこと、自分が求めて、自分が買ってもらいたいパンと、子どもたちの目線で自分が食べたいパンの違いが分かるので、すごくうれしいですし、ちょっとしたことを褒めてあげると、子どもたちもすごく笑顔を見せて意欲的になれるので、いいなと思います。

それを見ている私たちの娘の世代、小学生の世代も、自分は14歳になったらこういうところに挑

戦に行きたいと、いろいろなイメージを持ちながら日々成長しているというか、そういう姿も見せられてうれしく思っています。

長くなって申し訳ありませんが、57番「豊かで美しい農村漁村の持続的な発展・都市との交流」ですが、私が住んでいるのは魚津市の中山間地なのですが、前から高齢化がどんどん進んでいるのですが、今年から市外からの移住促進で、県から助成金が受けられるようになりました。

やはりすごく中山間地で進んでいて、電気柵の取り組みだとか、いろいろ県から助成を受けているのですが、やはり地元住民だけではどうしてもやりきれないところを、県の方が手伝いに、休みなのですがわざわざ出てきてやってくださっています。動物と共存ではありませんが、出てくるのは当たり前だと思って、その中で生きていくことを考えていかなければいけないのではないかと思います。2年間いろいろと勉強させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【森井委員長】 県への感謝といろいろなご意見、大変良かったと思います。ありがとうございます。続いて城村さん、お願いします。

【城村委員】 城村と申します。私は富山県介護福祉会の理事をさせていただいております。職業は高齢者施設で施設長をさせていただいております。私は介護福祉分野から、一つご提案させていただきたいと思います。

まず一つ目は若者の可能性を开花させるというところで、就労期の支援についてお伝えしたいと思います。今、小林さんから「14歳の挑戦」のお話がありましたが、「14歳の挑戦」では学生さんの勤労観、職業観を育てることがメインになっているかと思います。私が一つ考えたのは、高校生になると進学や就業など、具体的な進路設計が迫られると思います。職業を持つことがどういうことか考える必要があるのですが、イメージや生活設計を、なかなか具体的に考えられないという現実があると思います。実際には何となく仕事を選んでしまったというケースが多くて、企業の考えや、いろいろな法人の考えが伝わらずに就職してしまうので、実際の仕事や社会での企業の役割など、それこそぶっちゃけお給料の話など含めて、学生さんが生活設計をどのように描いていけるか、各企業や団体が実際に高校に出向いて、職業や仕事をよりイメージできるように、何か合同で説明会のようなものを開催してはどうかと考えております。

実際には高校さんといろいろな企業とが一緒にお話をしてそのようなものがあるのだと思うのですが、そういうものを県単位で取りまとめて、単発で終わるのではなく、何年か越して体系化していくことも必要なのではないか思います。私たちもそうですが、いろいろな企業が学校の先生には

伝えられないような、実際の生の声も伝えていけるのではないかと考えております。

私は介護分野から来ているのですが、かなり深刻な人手不足があります。施設としても、施設の魅力や介護分野はどのようなことをやっているのかということをお伝えされるような機会にしたいですし、こちらとしても PR するメリットは大きいと考えております。

もう一つ、若者の支援というところで、ニートやフリーターと呼ばれる方たちの対策で、窓口が県にもあるかと思うのですが、面接やジョブトレーニングなどと併せて、就労体験があると思えます。私の分野で、社会福祉法人では学校の先生や、夏休みの学生さんのボランティア、就労希望者の受け入れなど、地域社会から貢献が求められることに対して積極的に受け入れをしていくということが、一つ大きな使命としてあります。特に今年の春から社会福祉の法律が変わり、大きく地域貢献が求められることが明文化されております。

ですから、例えば県の若者相談の窓口から、職場体験やボランティアの希望者があれば、積極的に社会福祉法人や介護分野のボランティア、見学実習、就労体験などを使っていただきたいと考えております。それが最終的に就労につながれば、なおメリットがあるのですが、そのような方の就労に向けた第一歩になればと考えて、一つ提案させていただきました。以上です。ありがとうございました。

【森井委員長】 城村さん、ありがとうございました。続いて砂田さん、お願いします。

【砂田委員】 砂田と申します。北陸電力という電力会社から参りました。私は電力会社では人事の仕事をしていて、プライベートでは2児の父、幼稚園児の父でもあります。その仕事人、家庭人という二つの切り口から提言を申し上げたいと思います。

まず、人事の仕事の一つの柱として採用面があります。採用の面では、私どもの会社は北陸3県、富山、石川、福井をベースに活動していますので、どうしてもその3県、特に富山の人が多いのですが、出身の方の採用が多いです。

また一方で、他のエリア、例えば関東や関西、他の所から、それこそIターンのような形で来てくださる方が相当数いらっしゃいまして、最近では会社としても意識的に増やしてきています。その理由としては、やはり他のエリアからも優秀な人にどんどん来ていただいて、いろいろな違った観点からも仕事をしていただきたいということがあります。

もっと優秀な人を引き込むというときには、もちろん会社側としても魅力を高めていかなければいけません。例えば、研修を充実させるとか、あるいは会社の待遇を上げるとか、それから一方で、

もしも可能であれば県の施策として一つバックアップいただけないか、後押しいただけないかと思
います。

今現在、県の活動としては、例えばUターン、Iターンのセミナーのようなものがあるかと思
います。それももちろんですが、直接的なものもさることながら、間接的にも県の魅力、知名度を上
げていただけないかと。よく滋賀県の人などは、滋賀県は琵琶湖しかないとおっしゃいますが、こ
れはうらやましいと思います。滋賀県に行くとは琵琶湖かと。富山にもいろいろあるのですが、なか
なか富山に住んだことがない方、いらしたことがない方はイメージが湧きません。

富山の会社にせつかく興味を持っていただいても、富山の会社のイメージがなかなか湧かないか
ということで足が遠のいてしまうのは、もったいないと思ったケースがあります。では、施策をど
うすればいいかというのは、なかなか難しいのですが、ブランディングを図っていただければと思
います。

もう一つ、父親という切り口としては、教育の面では富山の方は、私自身も富山育ちですが、皆
さん非常に真面目で、基礎学習能力が高い方が多いと感じております。進学率も高いです。一方で、
学習能力もさることながら、文化、芸術、スポーツのような、他のところに価値観を見出したり、
他のところに興味を持った人をバックアップしていく体制が本当に十分なのか、もっとできるの
ではないかと感じることもあります。

もちろん都会に比べれば、県の規模的なものや立地的なものがあり、なかなか同じような環境は
難しいのは承知していますが、先ほどオリンピックのメダリストに触発されるという話がありまし
たが、何かきっかけがあって例えば芸術や文化、スポーツに興味を持った子どもたちに、機会を設
けてあげる、伸ばすチャンスを与えるような施策を図っていただければと思います。以上です。

【森井委員長】 砂田さん、ありがとうございます。ちょうど半数の皆様からご意見を頂きました
ので、ここで知事から、ここまでの意見に対するコメントをお願いします。

【石井知事】 皆さん、本当に熱意を持って多岐にわたるご意見を頂き、本当にありがたいと思
います。お一人お一人のご発言に全てコメントするのは無理ですが、最初に青木委員が多様性が大
事だと言われました。特に、なさっていることと関連するのだと思いますが、外国から来た方、特
に幼いころに富山にいらしたり、そもそも富山県で生まれたという方もいます。そういう方にい
かに積極的に、健やかに育っていただくかという視点が大事だという話がありました。確かにそう
いう視点は必要だと思います。

それから大塚委員からは、これからの観光は、おっしゃるように個人旅行客がどんどん増えてくると思っていますので、そのような方に対する対応、われわれもちろんそのことに気が付いているいろいろなことをやっていますが、さらにそうしたことに力を入れていきたいと思っています。

また、立山に小学校以来登ったことがない県民が多いという話がありましたが、立山に限らず、例えば新川の方は県西部の魅力を知らない、県西部の方は新川などの魅力を知らないということも、同じ県民でもあります。

余談ですが、私は昔、静岡にいたのですが、静岡県庁の人に聞いたら、部長以上が大体 20 人ぐらいだったか、その中で富士山に一度も登ったことがない人が 5 人ぐらいいました。やはり地元にいると、かえっていつでも登れるという意識ができてしまうということもあるかと思いますが、やはりふるさとの良さを自ら体験するということが大事だと思います。

それから大坪悟委員が話されたように、やはり大人、子ども、高齢者が一緒に楽しめる空間が大切だとか、オリンピックで金メダリストが 2 人も出た機会にもう少しいろいろ考えるべきではないかというのは、確かにそうだなと思います。また「活力」「未来」「安心」、いろいろな分野で各政策を打ち出していますが、それを点的にやるのではなく線でつなげる、できれば面でつなげて、総合的な政策として戦略的に展開していくことが大事だと思います。

また、スポーツと国際交流、富山空港の話がありましたが、先般、平成 28 年の補正予算で、例えば総合体育センターと富山空港の連携を良くするといったようなことにも着手しておりますが、いろいろな点でさらに努力していきたいと思っています。

それから大坪洋介委員から 65 歳以上の方が農業に携われるようなカリキュラムも用意してはどうかというお話を頂きました。検討させていただきたいと思っています。どうしても少し長い目で見ると、われわれはやはり 20 歳代、30 歳代の若い人に意欲を持って農業に携わってほしい、それにはやはり収益力が高い、付加価値が高い農業を作っていく必要があります。ご高齢の方も、もちろん大事だと思います。これはどちらかというエイジレス社会の形成といったような視点、位置付けになるのかなという気もしますが、またよく考えてみたいと思っています。

また、岡島委員が言われた、女性をもっと活躍できるようにいろいろな面での工夫、配慮、それから農業未来カレッジの 1 期生で頑張ってくださいと思いますが、お話のように、小林委員もそういうご意見を言われましたが、こうした場を通じて、県内、あるいは県外も含めて、いろいろな方々と人のネットワークをつくっていくことが非常に大事なので、そういうことをこれからも心掛けていきたいと思っています。

それから上澤委員ですね。修学旅行に力を入れていただいているのは、大変ありがたいと思いま

す。朝日町で随分いろいろなことをアクティブにやっていただいている、大変ありがたいですし、またぜひご活躍いただきたいと思います。また、民泊の話が出ましたが、これはよく勉強していきたいと思います。われわれとしては、基本的には推奨していこうと思っているのですが、ご承知のように国の方でもいろいろなメルクマールを作ったり、ガイドラインも作っていますから、県としてさらに何をすべきかということのを少し議論していく必要があると思います。

それから小柴委員がおっしゃった、これは日本全般に言えるのですが、自己肯定感が低い。確かに特に富山の方は、ある意味では非常に謙虚な方が多いということもありますが、もっとふるさとに誇り、愛着を持って、自ら発信する。実際にいろいろやっていただいているようで、ありがたいと思います。

それから小林委員からは、コシヒカリを越える新品種に期待をしていただいていると同時に、東南アジアなどで人気があるものに対応するような新品種という発想もあるのではないかというお話があったと思います。それはまたわれわれが勉強していきたいと思いますが、問題は同じ東南アジアの方に好まれるようなものと、人件費の問題などいろいろなことを考えると、東南アジアで作ったものに勝てるかということ、ちょっとそこがどういうことになるかなという気がします。また、「14歳の挑戦」を活用していただいて、ありがたいと思います。

それから城村委員がおっしゃった若者の支援ですが、おっしゃるようにニートの問題などいろいろあって、職場体験やボランティアなどを社会福祉法人などにもっと積極的に受け入れることを考えてはどうかということですが、かなりそういうことはやっているはずだと思いますが、あらためてよくチェックしたいと思います。

また介護については、キャリアパスが不十分だとか、もう一つはやはり処遇が他の職業に比べて、必ずしも良くない、格差があるということで、ここ数年来、これは富山県としても全国知事会としても、厚生労働大臣や人事院に働きかけて、ご承知のようにこの数年だいぶ処遇改善が進んできましたが、まだまださらなる充実が必要かなと思っております。

それから砂田委員がおっしゃった、優秀な人材を確保するために、富山県のイメージがもっと湧くようなブランド戦略が必要ではないかというのは、確かにそうだと思います。この数年、随分良くなって来たとは思いますが、ぜひ頑張っていきたいと思います。Uターン率がこの10年で51%から58%に上がって、51%でも多分、東京都を除くと全国で1番だったと思うのですが、それがさらに58%まで上がり、移出が大体年間1200人ずつ減りました。

もう一つはこの7~8年、積極的に移住を進めてきて、8年前までは富山県に移住してくださる方はせいぜい200人ぐらいだったのですが、それが3年前に400人を超すようになり、一昨年は462

人になりました。かつ、20歳代、30歳代の方が72%という数字になって、中にはお子さんを連れてくる人も増えてきています。去年は500人を超しているのではないかと思います。こういう傾向をもっと加速させていきたいと思っています。

それから、芸術文化に関心を持つ子どもさんにいろいろな機会をとというのは、大事なことだと思います。それからご存じかどうか、富山県の場合は民間中心の芸術文化協会というのがあり、分野にもよりますが、例えば洋楽などは、多分、日本の地方では間違いなくトップだと思います。そこを出ていろいろなことを身に付けて、宝塚などで活躍している人もたくさん出ていますし、それから全国のトップで、1番になったとかという人もたくさん出てきております。

【森井委員長】 知事、どうもありがとうございます。それでは後半ということで、引き続き高見委員からお願いいたします。

【高見委員】 株式会社岡部の高見と申します。弊社は建設会社で、私自身は土木工事の現場の施工管理を担当しております。現在は小矢部川で国発注の護岸工事を担当しております。建設会社ということで、安心というテーマについて一つ提案なのですが、私たちの仕事は災害で壊れたものを直したり、災害を未然に防ぐために工事を行っています。しかし、自然の力はすごく偉大で、対策を施したからといって必ずしも壊れないとは限りません。災害が実際に起きたときに一番大切なことは、早急に正確な判断が下せるかどうかだと私は思っています。

その正確な判断を下すために一番大切なことは、日ごろから防災訓練などに参加して、防災への意識を向上させることだと思っています。現在も防災訓練はいろいろな所で自由参加で開催されていますが、実際、仕事を持っているとなかなか参加する機会がありません。市町村レベルや学校、企業などで、多少強制的にでも防災訓練に参加するような仕組みができれば、皆さんの防災意識が高くなるのではないかと考えています。

次に、「人づくり」というテーマについて、社会参加の促進ということで、ボランティア活動への参加について一つ提案があります。私自身、会社の一員としてボランティア活動に参加することはありますが、恥ずかしながら個人的に参加したことは一度もありません。何か業務の一つというような捉え方でしかなく、あまりボランティア活動自体を身近なものという意識を持ったことがありません。

例えば小中などの義務教育の時期に、ボランティア活動を一つ教育の中に組み込んで、もっと身近なものになれば、自発的にいろいろな取り組みに参加しようと思う人が増えてくるのではないかと

と思います。以上です。

【森井委員長】 高見さん、ありがとうございます。続いて中瀬委員、お願いします。

【中瀬委員】 田中精密工業の中瀬と申します。自動車部品などを製造している会社で、品質管理業務に従事しております。また、小学校1年生と保育園年少児の母親ですので、そのような面からもこの機会を生かせればと思っています。よろしくお願いいたします。

1番の「安心」について、生活交通の確保で、高齢者福祉において、高齢者ドライバーによる事故が多発している中で、公共の交通機関の整備が重要だと考えています。私の叔父が警察官であることもあり、高齢者ドライバーの危険についての話を聞くことがよくありますが、その中で車がないと生活が成り立たない富山県ですので、高齢者も運転せざるを得ない状況です。今後、それによる事故が増え続けることが想定されますので、コミュニティーバスやコミュニティータクシーなど、高齢者が利用しやすいサービスの提供が必要なのではないかと感じています。

また、子どもにおいても、防犯はもちろん、最近ではクマやイノシシなど、登下校で警戒が必要なことがあります。その際、コミュニティーバスを利用するなど、安全を確保できるようにしていければいいのかなと思いました。また、放課後にコミュニティーバスを利用して好きな習い事に通えるような仕組みがあれば、子どもにとっても働く親にとっても、とてもありがたいと思っています。

次に、2番目については、テーマ4で、全ての人が活躍できる環境づくりについてですが、保育園のママ友からは、再就職がとても難しいという話を聞きます。正社員として働くことを望んでいても、やはり結局はパートや期限付きの契約社員に就くケースがほとんどです。会社を辞められた理由はさまざまだと思いますが、辞められたことを後悔している方が多く、もしそこに夫婦ともに柔軟な働き方を選択できる制度や、周囲に働き続けられる環境が整っていたのであれば、辞めることなく続けていたのかもしれないと思います。

企業でもそのような取組みを始めている会社はたくさんありますが、実際はまだまだ模索している状態なのではないかと思っています。ぜひ県が先頭に立って働きかけ、提案をしてくださることで継続的なものになり、広がっていけばいいと思います。以上です。よろしくお願いいたします。

【森井委員長】 中瀬委員、ありがとうございます。続いて服部委員、お願いします。

【服部委員】 株式会社アイザックの服部と申します。よろしくお願いいたします。弊社は産業廃棄物の処理をしている会社です。今回の内容で私が絡めるところが思い付かなかったもので、昨年、富山県主催の「煌く女性リーダー塾」というものに参加させていただいて、女性の働き方ということで1年間研修させていただきました。なので、今回はそちらを絡めて、雇用の促進や人材の育成、あと2番目の「人づくり」の観点から述べさせていただきたいと思います。

まず、若者に対しては、働くことへの興味を引き出すことが大切だと考えます。例えば若者が、自分が興味を持っていることがどのような職業につながるのか、あと世の中にはどのような自分が知らない職業があるのかなど、知る機会をもっと与えられることが必要だと思います。私もそうだったのですが、多くの人は高校や大学を卒業するときになって初めて、働くことへ興味や意識が向くと思うのですが、もっとその前から興味を引き出すことで、人としての成長や自立心などの向上が期待できるのではないのでしょうか。また、若者の可能性を開花させるには、勉強だけではなく、もっとそれ以外の他方面への興味と関心を促す教育が必要なのではないかと思います。

また二つ目、テーマ4の全ての人の活躍については、今は働き方が多様化している中で、例えば女性にしても高齢者にしても、退職せずに継続して働くための制度が、大企業を中心にすごく浸透してきていると感じられる一方で、継続して働くことができても、その中に充実や活躍などのキーワードが入ってくると、それが実施できている企業や、実感できている社員は少ないのではないかと思います。

例えば子育て中の女性は、今まで最前線で頑張っていたのに、あるとき、子育てによって責任ある仕事を任せてもらえなくなったり、再雇用の高齢者でも、急に簡単な仕事という言葉が悪いですが、単純作業等にシフトされるなど、仕事をしていてもやりがい、活躍する場が与えられないという問題が現実にあると思います。継続して働く制度がある程度浸透している今、そこからさらに一歩踏み込んで、自分が社会の一員であると感じられる働き方ができる環境づくりが必要なのではないのでしょうか。

また、労働者が不足している一方で、働きたい人が働けないという矛盾をなくすための対策も必要だと思います。ハローワークなどに行くと、職を探している人は結構おられますが、逆に求人もあふれかえっているのが現実です。今後、生産年齢人口が減少する中で、いかに働く人を増やすかが重要だと思うので、若者に早い時期から、働くことへの興味や関心を引き出すこと、あと働く人が充実して働ける制度、働きたい人と雇用したい人側のさらなるマッチングの促進などが、今後必要になってくる対策なのではないかと思います。

最後に今回、この委員に選んでいただき、恥ずかしながら私はこの総合計画審議会を始めて知り、

たくさん資料を送っていただいて、その内容の多さにすごくびっくりしました。どの内容もすごく詳しく検討されていますが、ただ、この内容を県民のどのぐらいの人が知っておられるのか考えたときに、とてももったいないと思いました。例えば女性活躍推進、若者の就職支援、人気企業の表彰等、5ページとかを見させていただくとたくさん載っているのですが、もっと広く県民にPRできる方法があればと思いました。以上です。ありがとうございました。

【森井委員長】 服部さん、ありがとうございます。続いて深井委員、お願いします。

【深井委員】 よろしく申し上げます。富山大学附属病院に勤務している、緩和ケア認定看護師の深井咲衣と申します。私が勤務させていただいているのは内科の病棟で、がんの方が8割ぐらい入院されている病棟です。私からは医療者の確保という点と在宅医療の推進について、あと女性が働きやすい社会について考えたので、述べさせていただきます。

まず、医療者の確保についてですが、ご存じのとおり高齢化社会が急速に進んでいて、高齢者医療において看護職や介護職が担うところは大きく、人員の確保が急務だと思います。量の問題だけではなく、質の問題も重要だと考えています。県内には看護師の育成機関が幾つかありますが、県内で教育を受けた学生が県内で末永く働き続けるためには、富山県に魅力を持たせる必要があると思っています。

私が大学のときもそうでしたし、今、新人で入ってくる子もそうですが、やはり富山県で教育を受けても、どうしても都会に憧れて、都会に出て行って就職する方も多いですし、特に向上心がある人や勉強したい人たちが、都会に出ていく傾向があると思っています。一般的に都市部に比べて地方の方が、より急速に高齢化が進展するといわれていますが、高齢者医療の画期的な政策は都市部のモデルになると思いますし、県内で働こうとする若者にとっても、都会に負けない魅力の一つとなり得るのではないかと考えています。

次に、在宅医療の推進についてですが、地域包括ケアシステムが推進されている今、在宅医療に特化した教育が求められていると考えています。この点に関しては、医療を受ける側の県民の意識改革も必要だと思っています。私はいわゆる急性期病院という枠の病院で働いていますが、医療者から見たら在宅療養が可能であるような患者さんで、往診される先生や訪問看護ステーションなど、受け皿は整ってきているけれども、それを受け入れる側の、ご家族さんや患者さん自身の不安が強いことや理解不足などがあり、在宅療養への移行が難しいケースが多々あります。もちろん医療者からのアプローチも考えていかなければいけないと思いますが、行政からの広報などの働きかけを

検討していただければと思っています。

3点目は、女性が働きやすい社会についてです。私自身、保育園児の娘が1人いて、私と娘の2人で生活しています。私の両親も同じ市内に住んでいるので、サポートを受けながら暮らしているのですが、富山県は持ち家率が高いですし、親世代と同居している家庭も少なくはないと思うのですが、正直、親の助けがなければ私は仕事との両立は難しいと感じています。私はいわゆるシングルマザーですが、共働きの核家族世帯も同じことが言えるのではないかと考えています。もちろんパートナーの男性の協力を得ることも大事だと思いますが、パートナー以外に頼れる場や資源が必要だと思っています。

金銭的な援助もいいのですが、ある程度の収入があれば支給はありませんし、そのような資源、資材の準備、そういう資材があるということを知らせる広報に重点を置いていただければと考えています。以上です。

【森井委員】 深井委員、どうもありがとうございます。続いて福井委員、お願いします。

【福井委員】 株式会社プロジェクトデザインの福井です。32歳のときに富山にUターンしてきて、起業して7年目です。おかげさまで毎年増収増益を繰り返し、まだまだ小さいですがメンバーも10人強まで増えてきました。

企業活力という視点から、2点ほどお話させていただきたいと思います。1点目ですが、弊社の売上げの9割は県外、国外です。ほとんどのお客さんは県外からです。弊社は人材教育、企業の人事部が使う研修教材を作っているのですが、ウェブサイトからその研修教材を買いたいと問い合わせをされてこられます。

県外からの問い合わせが増えたきっかけがありまして、それは会社概要を見て、そこでウェブサイトから離れる方が非常に多かったのが、これはどういうことだろうと研究したところ、東京からのアクセスが多かったのですが、東京の人が富山の会社だとあきらめて、問い合わせするのをやめているのではないかと感じました。そこでレンタルオフィスと電話番号だけ東京に借りて、会社概要に東京の番号と住所を載せたところ、そこから東京方面からの問い合わせが急増したという経過があります。

企業が成長していくに当たって、もちろん県内での支援も大切なのですが、新たな販路を開拓するという意味で、例えば県で東京エリア、あるいは京都、大阪など市場が大きいエリアに、若手の起業者にレンタルでオフィスを貸すとか、あるいは無料で住所と電話番号だけ配布するような施策

を取れば、県の人が気軽に大市場に打って出て、しかもそこから大きな取引を得ていくことができるのではないかと感じております。それが1点目です。

2点目ですが、「とやま起業未来塾」という素晴らしい取組みがあると思います。私自身は参加していないのですが、友人、知人が起業未来塾へ参加し、そして非常に成長していかれた姿を見ております。ここをもっと強化するという意味で、インパクトがあることをすべきではないかと思っています。

例えば、やはり起業家はお金をどう集めて、どう使うかが肝になるのですが、起業未来塾を受講されて非常に成績が良かった方には、例えば3000万円を上限として起業資金、あるいは企業の運営資金を助成する、支援するといった取り組みをしてはどうかと思っております。3000万円ではなく1億円でもいいと思いますが、とにかくスケールが小さい支援からはスケールが小さい企業しか生まれません。一点突破で、一つ看板となるような支援を立ち上げて、スケールの大きい起業家が県内に、かつては多数いらっしやったと思うのですが、だんだん小粒になってきているような気がします。スケールの大きい起業家が生まれるような施策を、県として支援されてはどうかと考えています。以上です。

【森井委員長】 斬新なご意見をありがとうございます。続いて古本委員、お願いします。

【古本委員】 富山県民間保育連盟青年部長をしている古本と申します。私からは基本政策の「未来」の中の28政策の5項目目「結婚・出産・子育ての願いが叶う環境づくり」について、意見を3点述べさせていただきます。職場が富山市内にありますので、多少、富山市内の内容になる可能性もありますが、ご了承ください。

まず、子育て家庭の経済負担軽減の面からですが、人口増加は2人目の出生で現状維持、3人目で増加が基本であり、人口増加のためには3人目を授かることがポイントです。富山市では今現在、保育料は住民税に応じて8階層に分かれており、3人目の無料化は8階層中5階層までが対象です。そのため、保護者の方からは所得の変動に応じて、前年まで無償だった家庭が、今年急に保育料を払わなければならない、今までの生活を圧迫するという声が聞かれます。人口増加に貢献しているにもかかわらず、なぜ負担がのしかかってくるのか、これは所得が多いからという一言では片付けられないのではないのでしょうか。

結婚や出会いの場の提供は確かに必要ですが、2人目ないし3人目を持ちたいと思う家庭の支援を重点に置いていただければと思っております。他の市町村は2人目から無償化の例がありますし、

富山市だけの特性だと思えますが、県全体で考えていただければと思います。

次に、待機児童です。今現在、待機児童は県内ゼロとなっています。しかし、それは親の希望を抜きにした数字であり、近隣に施設があるにもかかわらず入れないという現状があることが分かっています。ただ単に待機児童ゼロという数字にとらわれず、このような背景があることを把握し、今後の待機児童対策を進めていければと思います。

三つ目に、仕事と子育て両立支援の点についてです。今現在、育児休業制度を運営されていない企業も多く、保護者の方からは妊娠されると、うちは育児休業を取っていないからとか、そんなに育児休業は与えられないという企業があります。

また、子どもが熱を出すなど、体調不良時に休んであげられないのも現状です。もちろん病児保育など預け入れできる施設があることは、保護者にとってありがたいと思います。しかし、子どもの立場からすれば、熱が出ている上に知らない所に預けられる、子どもが身体的に病んでいるのにそういう環境に預けることこそ、大人の都合、企業の都合ではないでしょうか。父親の育児休業の取得率を上げることや、企業子宝率を上げることも大切ですが、子育てをしている方が何を求めているか十分に把握し、きめ細やかな手助けが必要だと思います。安心して育てる環境の方こそ、優先すべきではないでしょうか。

それと「人づくり」についてです。「人づくり」についてはなかなか分かりませんでしたので、当園の基本理念である「未来を担う子どもたちを育む」大切さに通じると思い、四つ挙げさせていただきます。

一つは、信頼できる大人や地域の中で安心して生活できること。二つ目に、生きる経験を積むことができるように、たくさんの環境が存在すること。三つ目に、困難なことがあっても乗り越えられるために、支えてくれる人、環境があること。最後に、いつでも帰ることができる自分の居場所があることです。以上です。

【森井委員長】 古本委員、ありがとうございます。続いて武蔵川委員、お願いします。

【武蔵川委員】 高岡伝統産業青年会副会長の武蔵川と申します。高岡伝統産業青年会は高岡銅器産業、高岡漆器産業に携わる40歳までの若手職人、問屋など、高岡のものづくりに携わる企業、45名の団体に活動しております。

高岡伝統産業青年会は様々な観点から伝統産業を県内外にてPRする活動をおこなっております。数多くの事業に取り組んでおりますが、大きく2つの事業を中心に数年おこなっております。一つ

目は、富山県内や首都圏での、ワークショップを開催しております。ワークショップの内容は、高岡銅器の鋳造物を中心に職人が一から教える人気ある内容です。大人から子供まで幅広く高岡のものづくりに触れていただける事業です。数年富山県や高岡市から補助を頂き、今後も継続して行いたいと考えております。

二つ目は「活力」の27番、「産業観光をはじめとした多彩なツーリズムの展開」の項目に該当しますが、我々高岡伝統産業青年会が行っています「高岡クラフトツーリズム」です。全国のものづくりに対して興味ある方を対象に、普段みることができない高岡のものづくり工場をめぐり、各工場にて職人がアテンドして頂き、高岡の伝統産業に深く触れて頂くツアーになっております。

8年目になる「高岡クラフトツーリズム」ですが、参加いただいた方と職人が交流を深める企画で、年々高岡のものづくりファンが増加傾向にあり、2回、3回と継続して高岡を訪れていただいたりしております。

「人づくり」のテーマに該当しますが、「高岡クラフトツーリズム」の企画参加対象者を毎年変えて行っております。企画の中で参加対象者を全国の美術大学生向けのツアーにし、高岡のものづくりを若い世代にまずは知って頂くきっかけづくりが必要だと感じます。興味が深い若者は今後高岡にて伝統産業の企業に就職いただく流れができれば、業界の後継者不足の解消や、富山県定住人口の増加、若い力で伝統産業業界の活性化エネルギーになると思います。以上です。

【森井委員長】 武蔵川委員、どうもありがとうございます。委員の皆さん、たくさんのご意見を頂き、ありがとうございます。まだご意見を頂いていない委員もおられますが、石井知事がこの後ご公務がおありですので、ここでいったん区切らせていただき、知事からコメントを頂戴したいと思います。石井知事、お願いします。

【石井知事】 皆さん、本当に熱心に、大変いい意見をたくさん頂いて、ありがたく思います。時間が、後のことがありますので飛ばし飛ばしになるかもしれませんが、最初に高見委員が言われた男女共同参画、それから例えばボランティアも、会社としては参加しているけれど、個人として参加したことがないので、もっと、例えば子どものころから小学校教育などで、ボランティア活動の大切さをアピールしてはどうかという話だったと思います。

これはふるさと教育や、先ほどの「14歳の挑戦」もそうですし、いろいろなことをやっていますが、また努力をしていきたいと思います。また、どうしても、防災訓練などに、熱心な方はよく来ていただくのだけれども、本当はこういう方に来てほしいという人が、実は来てくれないという問

題が毎回あります。これはなかなか難しいテーマですが、また努力していきたいと思います。

それから中瀬委員から、生活交通でコミュニティーバス、コミュニティータクシー、高齢者が利用しやすいサービスが必要で、そうでないとなかなか高齢者ドライバーの事故を防げないのではないかという話がありました。県内でも南砺市や富山市など幾つかの市町村で、特に過疎地域のような所ではデマンド型のタクシー、デマンド型のバスなどの運行も行っているのですが、また、この辺はどちらかというとし町村行政の分野ですが、今のお話でもまた市町村側にも伝えて、また県としても全体として地域交通をどう確保していくかは大事なテーマで、近くそういう会議もありますけれども、今のようなご意見を言ってまいりたいと思います。

それから、服部委員がおっしゃった、生産年齢人口が減っていく中で、若い人いかに意欲を持って働いてもらうか、また元気な高齢者に活躍してもらう環境、それから女性が育児休業制度など継続的に働く仕組みができてはいるけれども、まだまだ意欲を持って働ける環境にまで至っていない、ぜひそのようなことに力を入れてくれという話もありました。われわれも、女性の活躍を推進する協議会を昨年立ち上げて、経済界の、人事課長さんや部長さんといった方々への PR、研修は相当前からやっているのですが、今言ったようなことは、やはり企業経営者の方の意識、考えが変わらないとなかなか実現しないので、女性の活躍推進協議会には経営者ご本人にメンバーになってもらっています。北陸コカ・コーラの稲垣さんに会長になってもらっているのですが、さらに努力したいと思います。

また、煌めく女性リーダー塾というものも3年ほど前からやっております、確か、どなたかのご意見にもありましたが、やはり妊娠や出産などは、女性にしかできませんので、いろいろなハンディがある中で、富山県内でも大変輝いて活躍している女性が随分出てきていますから、そのような方々と、輝いているいろいろな女性がお話をされる機会をつくるとか、いろいろ工夫をしてみたいと思います。

あと、福井委員から、首都圏、東京に窓口、電話などを置いて、非常に問合せが増えたという話がありました。実は富山県はレンタルオフィスみたいなものを東京の白山に用意していて、今でも割合安い家賃で7~8社入ってもらっているのですが、まだ若干余裕があります。結構 PR しているつもりなのですが、もちろんそのようなニーズがあると思いますので、PR もしていきたいと思ます。

また、東京で移住や転職のフェア、私自身も出ましたが、そのようなところに何十社も参加していただいています。これからも大いに PR しますので、今日ご参会の青年委員会のメンバーの皆さん自身も、ぜひ他の会社や地域の皆さんに「県は宣伝下手だけれども、結構こういうことをやって

いる」と、教えてあげる役割も担っていただくとありがたいと思います。

それから武蔵川委員には、産業観光や体験ツアーなど、いろいろやっていただいている、ありがたいと思います。まだ見落としした点もあるかと思いますが、次の公務がありますので、これで失礼します。幸い、知事政策局長、観光・地域振興局長以下、私よりよほど優秀な職員がおりますので、またこの後も引き続き議論していただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

【森井委員長】 石井知事、ありがとうございました。知事には、次のご公務のため、ここで退席されます。ありがとうございました。

引き続き、委員の皆様のご意見を頂きたいと思います。続いて森委員、お願いします。

【森委員】 株式会社エムダイヤの森です。滑川でリサイクル機械の製造販売をさせてもらっています。7～8年前にとやま起業未来塾を卒業させていただき、昨年末には増資をさせていただき、経営の安定化を図るとともに、順調に推移させてもらっています。

「活力」の部分でお話をさせていただきますと、中小企業への施策をさらに充実させてほしいと思っています。人材育成ということで、社員に語学短期留学や、それぞれの国に短期で滞在し、生活や文化、宗教、ビジネスに触れるような機会があるとありがたいと思っています。

また、設備への補助金や助成金の充実ということで、単に金銭的な部分だけでなく、プレスリリースやPRなどが大々的、側面的にできるようなものと、ありがたいと思います。

また、例えばわれわれは JICA の ODA 案件に採択していただきましたが、専門知識やスタッフ、財務条件等、いろいろな要件があり、少し敷居が高いかなと思っています。もっともっと中小企業が積極的に海外展開できるような策があると、ありがたいと思います。そのようなことをしながら若い方の雇用を積極的に行い、活力のある富山に寄与できればと思っています。

「未来」というところで、グローバル社会に対応できる社会ということで、英語に限らず、海外での考え方や文化、宗教、ビジネス手法、出会いや交流などが充実するといいいかなと思っています。

社内でも、積極的に外国人に触れるような機会をつくるようにしており、弊社にも英語や中国語が話せるオーストラリア人がいたり、昨年はインドネシア人の方、そして一昨年にはマレーシア人の方のインターンシップを受け入れて、積極的に海外の方との関わりを進めております。このようなことに対して、これも金銭に限らず、セミナーやアドバイザーなど、いろいろな補助があればさらに社内の活性にもつながると思っています。

また、若手経営者と年配の経験豊富な経営者の方とが一緒に海外に行くような経済訪問団などが

あると、ありがたいと思います。われわれの会社も、海外に展開する上で、経済訪問団がスタートになっております。そのような意味でいろいろな経験をたくさん持った年配の経営者と一緒に、いろいろなことを勉強させていただけるようなものがあると、さらにありがたいと思っております。以上です。

【森井委員長】 森委員、どうもありがとうございました。続いて山崎委員、お願いします。

【山崎委員】 高岡青年会議所で本年度、理事長を務めます山崎真です。皆さん、どうぞよろしくお願いします。知事が退席されて非常に残念に思っております。山崎という名前に生まれたことを激しく後悔しております。

私からはまず、全て県にお願いしたいことで、チャンスの提供と機会の整備に、これまで以上に注力していただきたいと思っております。私ども青年会議所は、「まちづくり」「未来づくり」「次世代づくり」の三つと、あと「人づくり」を大きな柱として活動しております。

まず「まちづくり」に関して、「活力」の政策の3番、4番、大きく、先ほど新幹線の話もありましたが、インフラ整備に今後ぜひ、これまで以上に力を入れていただきたいと思っております。新幹線は一昨年、金沢まで開通しましたが、その後、大阪まで延伸します。新幹線だけではなく、飛行機、飛行場の整備の問題もあると思っております。今まで、新幹線が通る前は、言葉は悪いですが陸の孤島のような状態だったわけで、今後、これまで以上に国内、そして海外に出ていくためにも、この飛行場の整備は必ず必要だと考えております。

また「未来づくり」「次世代づくり」で、次世代を担う子どもたちに対しての道德教育や、また「親学び講座」というものも施策の中にはありましたが、こちらぜひ強化していただきたいと思っております。

テーマの2番目、「人づくり」に関して、働き盛りの世代、そして若者世代ということで、こちら最初にも言いましたように、私は富山県内では機会が圧倒的に不足していると感じます。東京は文化、スポーツ、経済など、全てにおいて中心で、全て身近に手に入れることができます。それを富山で解決するためにはインフラの整備、また自分がそこに行きやすい、それを手に入れやすい環境が必要だと思います。全ての若者、また働き盛りの世代に関しても、これらに触れる機会をこれまで以上に増やすことによって、富山に住んでいてもそのような情報やものに触れることができる、ここに注力していただく施策に、ぜひこれまで以上の注力をお願いします。

また、特に働き盛りの世代に関しては、われわれのように、ここにいらっしゃる皆さんもそうだと思いますが、いろいろなコミュニティーがあり、いろいろな活動をされていると思っております。民間

でもこのように積極的に動いているところがありますので、ぜひそこに対して多くのご支援、金銭的な面も含めてのご支援だと思っておりますが、それをぜひこれからもお願いしたいと思っております。以上です。

【森井委員長】 山崎委員、ありがとうございます。今後まだ2回ありますので、次はまた知事がおられるところでしっかりとお願いいたします。

皆さんから一通りご意見を頂きましたが、私も委員の一人ですので、私からもかいつまんで。皆さんから本当にたくさんご意見を頂いたので、自分が当初から考えていたものを言われた部分も多々ありますが、私の意見も言わせていただきます。

私は商工会議所青年部連合会ということで若手青年経済人の立場、そして仕事は社会保険労務士をしておりますので雇用管理、経営環境などの視点から、意見を述べさせていただきます。

「活力」ですが、福井委員など、いろいろな方が起業未来塾の話をされました。私も参加したことはありませんが、いろいろ外から見ていて素晴らしい塾だと思います。卒業生が素晴らしい活躍をされていることも存じております。そのような県の施策の効果で、開業率が5.4ポイントと調査以来最高だということで、非常に定量的な成果が出ていて、素晴らしいと思います。

一方で、私は諮問委員を市も含めて幾つかしていますし、知事がタウンミーティングで各都市を回っていらっしゃいます。そのようなところでも質問させていただく機会も頂いたことがあるのですが、そのときに、新たな成長産業として製造業やバイオ、医薬業などにも力を入れていくべきだというようなこともおっしゃっておられました。

起業塾を卒業されている方は、ややサービスの部分が多いものですから、県が期待するイノベーション的な部分への誘導というか、そこをもう少し手厚くするとか、設備面や知見の高さなど、いろいろな部分が要求されるので、非常に難しい面はあるのですが、やはり総合計画自体が10年先を見据えたものですから、そのような部分が何か、トータル的な政策として必要ではないかと思っております。

これに関連して、企業立地の促進を今後も図っていくのはもちろんですが、昨今、記憶に新しいところで、大型小売店舗などもどんどん参入されています。それは素晴らしいことなのですが、一方でいろいろ、固定資産税の減免の問題とか、労働者確保ということで、一時期、時給がすごく上がった時期が昨年あり、基幹産業といわれる建設や美容関係、福祉、保育の業界で、本当に人手不足でどうにかならないかという相談を、私は労務士として多々受けた経験があります。

そのようなところで、目指す方向と実際のバランスを取ることは、やはり県という大きな部分で

やっただけであればいいかなと思っております。

「人づくり」に関しては、仕事柄なのですが、知事にものすごく貢献していただいているのは、仕事と家庭の両立、仕事と子育ての両立支援です。次世代育成法に基づく一般事業主行動計画というものがあって、国では従業員が 101 人以上の企業に行動計画を作る義務を課しているのですが、知事はこの部分に非常に積極的で、条例で国の政策を上回る従業員が 51 名以上の会社から、行動計画の策定義務を設けています。

加えて、今年の 4 月から、31 人以上の企業にそれを求めるということで、企業の協力が不可欠だということを本当に一生懸命言われていて、企業の表彰制度もあります。いろいろなことで民間に対して一生懸命働きかけていらっしゃるということは、私も非常に身近に感じています。

女性の就業率が高いのですが、管理者の割合が約 5%で、これは全国最下位ぐらいです。こちらについても昨今、国では女性活躍法に基づく一般事業主行動計画の策定を、法定では従業員が 301 人以上の企業に求めているのですが、多分、こちらも少し条例などで拡大してやっていくということで、企業に対しての働きかけを県は非常に積極的にされているので、今後もそのようなことを積極的に続けていただきたいと思っています。私からは以上です。

それではいったん、皆様にご意見を頂きましたので、森さん以降について、観光・地域振興局長からコメントを頂戴したいと思います。お願いします。

4 閉 会

【観光・地域振興局長】 ありがとうございます。森委員、山崎委員、森井座長のご意見は、知事にちゃんとお伝えして、これからの議論に反映させていただきたいと思っております。私から何かコメントというのもあるのですが、知事と相談して、次回以降の議論に反映させていきたいと思っております。今日はありがとうございます。

時間の関係もございましたので、意見を十分に言い尽くせなかった方もおありだと思います。お手元にご意見を記入する用紙を配布しておりますので、後日、事務局に郵送、ファクス、Eメールなどでご意見をお寄せいただければと思います。よろしく願いいたします。本日は短い時間でしたが、たくさんの意見を頂きまして、ありがとうございます。次回以降、また日程調整をしまして、計画の策定に向けて議論をお願いしていきたいと考えております。よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。